

京都大学原子炉実験所研究用原子炉(KUR)の耐震安全性評価の 妥当性確認に係るクロスチェックの概要について (案)

平成21年7月15日

原子力規制室

1. 目的

京都大学が実施した耐震バックチェックの地震応答解析等における解析条件等の適否、結果の妥当性について、外部委託によりクロスチェックを実施し、耐震バックチェック結果の妥当性の確認に資することを目的とする。

2. クロスチェックの主な内容

(1) クロスチェックの調査対象

表1のとおり。

(2) 地震応答解析等

京都大学が地震応答解析等に用いた計算コードとは異なる計算コードにより解析等を行い、解析結果を比較し、解析条件・内容等の妥当性について確認する。

地震応答解析では地質・地震動 SWG において確認された入力地震動を用いる。

(3) 京都大学による検討の妥当性の確認

京都大学が実施した調査対象(表1)の確認内容、結果について、その妥当性の確認を行う。確認については原子炉施設の機能毎に行い、各機能間相互の関係についても確認する。

表1 調査対象

調査対象		設備・機器等の内訳	
建物・構築物		原子炉建屋*	
		外周壁、屋根版、基礎地盤	
機器・配管系	閉じ込める	原子炉本体	生体遮へい体*
	冷やす	原子炉冷却系統施設	1次冷却系配管 (炉心直下部)
	止める	計測制御系施設	制御棒(制御駆動装置*)

備考：*印は、京都大学が地震応答解析により確認を行ったものを示す。